TOPICS 4

トピックス…④

輸入粗飼料依存経営の問題点

わが国の酪農経営、とくに飼料生産基盤が脆弱な都府県の酪農経営は、近年、輸入乾牧草価格の変化に大きな影響を受けている。しかし、高水準で推移してきた乾牧草の輸入価格は、最近の産地相場の高騰や円安の進行により、さらに上昇する見込みである。そこでデータにより、わが国酪農の飼料生産基盤の現状を明らかにするとともに、輸入乾牧草をめぐる問題を整理する。

脆弱な飼料生産基盤の実態

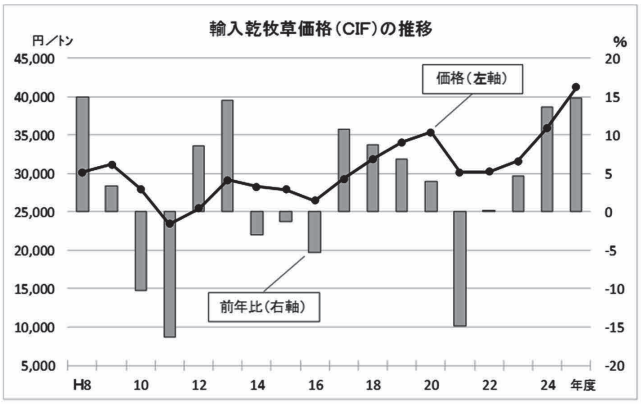
飼料作物の作付面積は昭和40年代には、国家プロジェクトによる草地開発や既存耕地への作付け拡大等により急速に拡大し、昭和50年代に入っても、水田利用再編対策の実施にともない増加を続けてきたが、畜産農家戸数の減少の下で既存草地は円滑に継承されなかった等により、長らく減少傾向で推移した。しかし、平成18年秋以降の配合飼料価格の高騰、その後の高止まり状況を受けて、国産飼料増産の取組が推進された結果、20年以降は減少に歯止めがかかり25年度は91.5万haとなっている（表1参照）。

この間の酪農経営における1戸あたりの飼料作物作付面積は、全国的に増加傾向で推移し、平成25年は北海道が60.0ha、都府県が6.6haとなっている（表2参照）。しかし、飼養頭数規模の増加にともない大家畜1頭当たりの飼料作付面積は、近年の自給飼料生産コストが輸入粗飼料価格と比較して優位にあるものの、北海道が減少傾向で推移し、都府県が微増にとどまっている。

その結果、酪農経営における飼料自家生産の割合（ＴＤＮベース）は、利便性が高く、労働負担の軽減にもつながる輸入粗飼料を利用する傾向が高まる中で、全国的に低下傾向で推移している(表3参照)。これにともない、粗飼料給与率（ＴＤＮベース）も低下傾向で推移し、平成23年は北海道が54.3%（昭和45年は78.1%）、都府県が37.0%（同44.1%）まで下がっている。

入乾牧草価格の動向と見通し

図に示したように乾牧草の輸入価格は、おおむね上昇傾向で推移しているが、平成21年度以降、新興国での需要の増加、主産地における天候不順、円安の進展等によりいっそう上昇している。とくに、わが国が輸入する乾牧草の大半を供給する米国では、海外需要の増加に加え、高乳価を反映して国内酪農家の需要が旺盛なため、本年産のチモシー、スーダン、アルファルファの輸出価格がさらに高騰する見通しである。



資料：農畜産業振興機構公表資料より作成

すでにみたように、良質の乾牧草を手ごろな価格で輸入できる時代ではなくなった。そこで、国際相場の上昇に対して、輸入先の分散や代替草種への移行によりその影響を緩和する努力が講じられている。かつて、米国産乾牧草が輸入量の80%以上を占めていたが、昨年度は70%強となり、代わりに豪州産が20%近くまでシェアを拡大している。しかし、輸入乾牧草の価格が、わが国の酪農経営を大きく圧迫する要因であり続ける状況に変化はないであろう。

表１　わが国における飼料作物作付面積の推移

単位：千ha

	昭和45年	50	60	平成2年	7	12	17	20	21	22	23	24	25
全　国	665.9	839.5	1019.0	1046.0	980.2	934.7	905.8	901.5	901.5	911.4	933.0	931.6	915.1
北海道	366.4	530.1	600.7	613.4	621.7	613.2	603.3	601.8	601.3	601.1	600.8	598.7	596.5
都府県	299.5	309.4	418.3	432.6	358.5	321.5	302.5	299.7	300.2	310.3	332.2	332.9	318.6

資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」より作成

表２　酪農家１戸当たり飼料作物作付面積の推移

単位：ha/戸

	昭和46年	56	平成3年	8	13	18	20	21	22	23	24	25
全　国	2.0	5.6	13.2	16.0	19.8	22.5	23.5	24.7	25.7	26.3	26.7	28.4
北海道	8.2	22.0	33.8	38.5	45.6	53.8	53.9	56.4	56.2	57.5	56.8	60.0
都府県	0.9	1.6	3.7	4.3	5.1	5.4	6.0	6.1	6.3	6.4	6.5	6.6

資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」より作成

表３　酪農経営における飼料自家生産の割合（ＴＤＮベース）

単位：%

	昭和45年	50	55	60	平成2年	7	平成12年度	17	20	21	22	23
全　国	49.3	44.7	46.7	41.8	39.6	34.6	33.9	33.4	34.9	33.8	33.7	31.6
北海道	77.2	74.8	68.8	63.8	60.7	55.4	54.4	52.6	52.7	51.5	49.9	48.5
都府県	36.2	31.8	33.3	30.6	26.1	20.5	17.2	15.4	16.7	15.4	16.3	13.0

資料：農林水産省「飼料をめぐる情勢」より作成